



‘暖かい暮らしのパートナー’

医療法人社団 白報会 草加幸楽園 様

お客様訪問

No.36

埼玉県内で4箇所の老人ホームを運営している幸楽園様。今回は草加幸楽園、介護事業部ブロック長の松島侑弘様にお話を伺いました。
■幸楽園様の特徴を教えてください。

幸楽園は、食事サービス等が付いた老人ホームで、埼玉県内の4箇所に「所沢幸楽園」「人間幸楽園」「越谷幸楽園」「草加幸楽園」を運営しております。

“暖かい暮らし”を重視し、“お手伝いする人・される人”という関係ではなく、心安らぐパートナーとなるよう日々努めています。
■入居者様に対して、どんな点に気を配っていらっしゃいますか？また、設備上、気を付けている点などありますか？
「優しい言葉」と「優しい手」をモットーに、さらに快適な生



▲介護事業部ブロック長の松島侑弘様

活をご提供できるよう、ケアに対して決して妥協しないという強い使命感を常に持ち、ご入居者様に“充実した自分らしい人生”を送っていただけるようお手伝いを致しております。

■トイレに関して気をつけている点や、工夫している点をお教えてください。

トイレは、入居者様が快適に過ごせるかどうかの大事な役割を担っています。今以上に清掃や衛生面に気を配り、より良く改善していきたいと思ひます。

また、今後はスタッフへの教育の場としても活用していこうと考えております。

■アメニティを導入した理由と、導入して良かった点を教えてください

最初は、節水で相談に乗って頂いていました。その後、トイレや室内の臭気に対してのアドバイスから導入させて頂きました。導入後は、臭気などの相談だけではなくスタッフ教育やプライベートの相談までさせて頂いて、本当に感謝しております。



■最後に担当(ショップ)へ言をお願いします

私だけではなく他のスタッフへの声掛けや心配り、誠にありがとうございます。鍋島さんに会うと向上心が湧いてきます。これからも、スタッフ一同宜しくお願い致します。

★ 私が担当しています! ★

SHOP
アメニティP2 東京都足立区
鍋島匡太郎(なべしまくにたろう)さん トイレ診断士 ID : 10-0107-0231
幸楽園様の、入居者様への接する笑顔にいつも元気を頂いております。松島様の入居者様だけではなくスタッフを想う気持ちや、今よりもっと良くしたいという考えに、少しでもお役に立てるように今後も努力してまいります。

Toilet Topics



トイレクイーン アイアイ

菜月アイルさんCDメジャーデビュー!

アメニティが実施している公衆トイレのネーミングライツ「トイレ診断士の廁堂」の看板娘でもある「トイレクイーン」の菜月アイルさんが、この度渋谷系ガールズロックアイドルユニット『CANDY GO!GO!』としてCDメジャーデビューをいたしました。CANDY GO!GO!は都内を中心にラ

イブ活動を精力的に行いながら、TVやラジオ、写真集などに活躍の場を広げ、熱い注目を集めています。昨年10月22日に発売されたメジャーデビューシングル「神様のイジ悪」はオリコンデイリー8位、ウィークリー17位獲得と、これからも目が離せません!

アイアイって
呼んでね



▲活動 5 年目となる CANDY GO!GO!



▲CANDY GO!GO! 期待のニューシングル「神様のイジ悪」通常版・全3曲入、1,000円(税込)

アイアイからメッセージが届きました!

12月には私のソロシングル「B side U」が発売になりました。作詞をさせていただいたのですが、元気がないときや寂しくなった時に君は一人じゃないと勇気を与えられるそんな曲になっています。これからもっとみなさんの目にもふられるように頑張っていきますので応援よろしくお願いします!!是非一度ライブを観に来てください!

編集
後記

Information!

メジャーデビュー記念 サイン色紙 & CDプレゼント

アイアイのCDメジャーデビューを記念して、CANDY GO!GO!の「神様のイジ悪」菜月アイル版CDと、サイン色紙を抽選で10名の皆様にプレゼント致します。ご希望の方は①住所②氏名③お勤め先④かわや版の入手方法(担当ショップ)⑤かわや版やアメニティのサービスへの感想等をご記入の上、Eメールで candy55cd@gmail.com までお送りください。締め切りは2015年2月15日です。なお、発表は発送をもって代えさせていただきます。



【発行所】株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright © 2015 AMENITY INC. All rights reserved.

トイレを楽しくする新聞

かわや版
KAWAYABAN

2015 新年号
Vol. 53

特集

目に見えない脅威

ノロウイルスの
感染経路

12月から3月にかけて、1年の中でもノロウイルスの感染が多い時期です。集団感染のニュースもしばしば目にするでしょう。今回は、長野県保健福祉事務所、食品・生活衛生課の和田由美氏にノロウイルスのトイレにおける拡散の実態について、画期的な実証実験を行った結果をお話いただきました。



和田 由美氏
長野県保健福祉事務所 食品・生活衛生課 食品衛生係長

食品の安全を確保するため、食品関係営業者の営業許可や監視指導、食品検査等を行っている。また、営業者や消費者を対象に食中毒予防のための啓発活動に努めている。

生存力と感染力の強い
ノロウイルス

ノロウイルスは食べ物や飲料水等で増えることはありません。人が摂取し、人の腸の中で増えます。増えたノロウイルスは便から排出され、下水処理場も通過して海に運ばれます。そして二枚貝がそれを溜め込んでしまい、それをまた人間が食べ、腸で増えて便として排出して…とサイクルが繰り返されます(図1)。死滅させるには塩素系洗剤で漬けたか、85℃以上の熱湯の中で1分以上煮沸させる必要があります。ノロウイルスは一年中存在しますが、特に冬に問題視されるのは冬の低温は外界でもノロウイルスが生存するのに適していることや、乾燥してウイルスが浮遊して感染する機会が高まるためだと思われます。また、カキなどの二枚貝を口にする機会が増えるこ

とから感染事例が増えるとも考えられます。ノロウイルス感染者の便が数グラムあれば日本国民すべてを感染させられる能力があるといわれているくらい怖い存在なのです。

ノロウイルスは
どれくらいの大きさ?

ノロウイルスをピンポン玉の大きさ(約4cm)に例えると、人間は日本列島くらいの大きさ(約2000km)になります。それほど小さいためノロウイルスが手の指紋の隙間に入り込んで無意識に手を口に運んで感染してしまうことや、食品を触ってウイルスを拡散させてしまうことは十分にあります(図2)。最近のノロウイルスを原因とした食中毒の多くは、食品を扱う人の手が汚染源になっています。食品業者にとって、食中毒を発生させてしまうことは営業停止など深刻な事態にな

ってしまいます。そこで私たちはウイルスを含む便がなぜ調理食品に付着するのかを検証する実験を行い「見える化」しました。

トイレにおけるウイルス
拡散実験

トイレで感染者が強い下痢をした場合に、どうやってトイレや人の手が汚染されるのかを調べました。ゼリー飲料の容器にボスターカラーを入れた「擬似排便装置」を実験者の肛門の位置に設置し、勢いよく押すことで強い下痢便を再現しました。これによると、和式便器の場合、靴やズボン、便器の外の床や壁などにも飛沫が確認されました(図3、4)。清掃する際には床や壁など、広範囲に行わなければならないことがわか

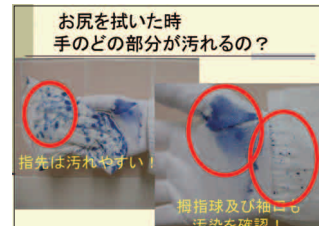
ります。お尻を拭いた状態では指先や手のひらの下部(母指球)、さらには袖口の部分にまで便が付着していました(図5)。つまり、手を洗う際には手首までもしっかり洗わなければならないということです。また、洋服の袖口も要注意です。食品加工時に袖口が食品やまな板に近づくことも当然考えられます。こうして食品を扱う人が調理場にまで病原物質を運搬してしまう可能性が想像しやすくなりました。



(図4)



(図3)



(図5)

まとめ

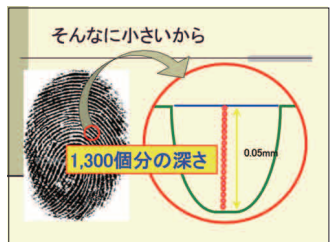
強い下痢がこれほどまでに広範囲に広がっているとは衝撃的でした。また手洗いの際にも「手首まで洗う」必要性がよくわかる実験だったと思います。調理に従事する人だけではなく、家庭や職場でもトイレがウイルスの感染・拡散の元にならないよう適切な管理や手洗いを心がけましょう。(文・セルベッチオ中嶋)

調理従事者のトイレ使用における注意点

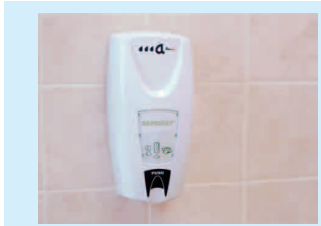
- ◇トイレの外で上着を脱ぎ、長袖の衣服を着ている場合は袖口をまくる
- ◇トイレ専用の履物に履き替える
- ◇手洗いは石鹸を使用し、親指の付け根、手首まで念入りに行う



(図1)



(図2)



便座除菌クリーナー
『V-ZERO』

アメニティの便座除菌クリーナー『V-ZERO』はウイルス・菌にも対応しています

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110

文献に学ぶ「トイレ文化」



このコーナーでは、「トイレ文化」に注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介します。

第13回

古今東西トイレよもやま話

各地のトイレの歴史 6

明治維新の近代的公衆トイレ 「公便所」

江戸時代の鎖国が解け、文明開化の玄関となった横浜は、すでに開港して10年がたち、外国人居住者も増えつつありました。彼らの悩みの一つは、日本の悪弊、時代が変わっても無くならない立小便でした。これに対する不満は大きなものだったようで、苦情も出されたようです。そのような状況の下、明治4年(1871)に、立小便した者は、その場で100文の罰金という布告が出され、当時の警官にとってその取締まりは重要な任務の一つとなりました。さらに、翌年布達された現在の軽犯罪法に当たる「いしきかいじょうれい違式註違条例」でも立小便や蓋無肥桶による運搬の禁止が記されています。

これらと同じ時期、神奈川県は明治4年11月に路傍便所設置を示達し、町会所の費用で町の辻に公衆トイレを新設させています。これは四斗樽を地面に埋め、板囲いをしただけの簡単な作りで「公便所」と呼ばれ、明治5年4月には83カ所に作られました。しかし、あまりに粗末なため、横浜在住の薪炭商、浅野総一郎が、県に公便所の改造を

申し入れ、金2,000円の貸し下げを受け、明治12年初夏には、新式の公便所を63カ所に設置しました。

新式公便所は、洋風六角形のハイカラなデザインで、屋根中央には換気を兼ねた塔が立っています。3カ所ある入口から中に入ると、3つの大使所に挟まれるように小便所が配置されています。浅野は、毎朝4時に起き、これらのトイレを見回り、汚れている所をチェックし、そこに人夫を差し向け清掃させ、常に清潔を心掛けました。また、糞尿処理を一手に扱い、近郊農村だけでなく、千葉県にまで船で輸送し、肥料として売りさばき、大金持ちになったといわれます。

「公便所」の名称は、明治28年頃から「共同便所」へと変わっていきました。



▲明治維新の公衆トイレ、洋風公便所(模型)

新島襄旧邸、 腰掛形洋風(式)トイレ

腰掛形洋風(式)トイレが日本に最初に現れたのは、幕末期の開港地にあった外国人居留地の洋館であったと考えられています。しかし、これらは残っておらず、現存する最古例は、京都市内、京都御所東隣に位置する新島襄旧邸のトイレです。

新島襄(1843~90年)は、明治8年(1875)同志社を創設し、キリスト教主義の教育を始めたことで有名です。この旧邸敷地は、同志社英学校の創設に際し仮校舎となった同志社発祥の地でもあります。後に新島の自邸が新築されますが、これが現存する建物で、明治11年9月竣工と伝えられ、設計は宣教師テラーの助言を得て新島自身が行ったといわれます。この建物は、新島が西洋の良い所を取り入れながら、日本の伝統技術を応用して建てているため、和洋折衷がみごとに実現されています。そして、その象徴的部分がトイレに見られるわけです。

トイレは平屋部分の廊下の突当りに位置します。腰掛けは木製で床より約50cm高い段になっています。中央に直径約25cmの丸い穴が開けられ、使用しない時は木製の蓋(ふた)がのせられています。このトイレの横には、しゃがみ式の和式トイレが併設され、外国人客などは洋式を、洋式に慣れない家人は和式を利用したといわれます。



新島襄旧邸外観／京都市文化市民局文化財保護課写真提供



新島襄旧邸の木製洋風腰掛式トイレ／京都市文化市民局文化財保護課写真提供

文明開化、洋館のトイレ

1868年、明治維新と共に、日本にも外国文化が数多く流入しましたが、洋式トイレもその一つでした。

福島県会津若松市に残る洋館、旧有栖川家別邸「てんきようかく天鏡閣」(明治41年竣工、重要文化財)のトイレには、ニューヨーク製の水洗式大便器とロンドン製の小便器が取り付けられていました。現在では一般に大便器が小便器を兼ねてしまう洋式トイレで、それぞれ別に備え付けられているというのも不思議ですが、当時の洋館では、よく見られた組み合わせだったそうです。

明治時代中期には、腰掛けて使う洋式(洋風)の水洗式トイレが流行しましたが、35年頃には、しゃがんで使う和式の水洗式トイレも現れています。



▲洋館天鏡閣のトイレ(模型)

トイレの歴史と文化を振り返り

トイレの歴史を断片的ですが振り返ってみました。人種、民族、気候、風土、

習慣等、多くの要素に影響を受けやすいトイレ文化は、一筋縄ではとらえられない屈折した歴史を経てきています。ローマ帝国の優れたトイレから中世ヨーロッパ「不潔時代」のトイレへの極端ともいえる変換にその頂点がみられますが、ここに、歴史の皮肉と文化の多様性、そして、意外と無批判に生活続ける人間の姿をみる事ができたように思います。

このことは、安易に水洗式トイレを受け入れ、当然のようにトイレット・ペーパーを消費し、排泄物を海洋投棄する、現在の日本のトイレ文化への警鐘ととらえることもできるのではないのでしょうか? もともと下肥として人間の糞尿を利用していた日本では、大森貝塚の発掘で知られるE. S. モースが「日本人の汚物処理はまったく無駄がない」と評価したように、糞尿を貴重な資源として再利用(リサイクル)するためのトイレ文化が発達していました。

しかし、その下肥利用がほとんど見られなくなり、投棄の状況も厳しい現在にあって、糞尿のリサイクル・利用価値の再検討は重要課題の一つといえます。その各方面での研究成果は、道路用煉瓦ブロックや薬品、下肥とは姿を変えての肥料としての利用に結び付いてきました。「不潔時代」に戻ることはないよう、環境汚染を起こさないトイレ文化を考えていく必要があると思います。

トイレのレベル・アップ

「自然が呼んでいる(a call of nature

の直訳でしょうか)」と言ってトイレに立つことがあります。人間にとって、心身のリズムは、自然界のリズムと調和しているに違いありません。従って、自然を身近に感じることでできる環境の中では、快適な気持ちでいられるのでしょうか? 輝く太陽の光の下、爽やかな風を受け、清らかな水の流れの側、軟らかな土の感触とみどりの薫り、そのような中でお弁当を広げる楽しさは、そのまま、用を足す快感にも通じるのではないのでしょうか? かの大久保彦左衛門の言葉(※本文下段参照)が思い出されます。

未来のトイレでは、このような自然の中にいるに等しい快適さが、だれでも味わえ、楽しめるようにしたいものです。トイレをそのような安らぎの空間とするため、まず、4K(汚い、臭い、暗い、恐い)を追放しなければなりません。中世ヨーロッパの街を思い起こせば、トイレが4Kに脅かされると、生活空間にも悪影響が及ぶという事実を理解するのは簡単なことだと思います。そこで、人間の感覚に優しいトイレ空間を演出するため、施策を練らねばなりません。例えば、視覚・聴覚・嗅覚、それぞれに快い黄門様の「スギの葉入り小便器」は、これらを取っ払った優れたアイデアということが出来ます。

このような工夫を重ねることにより、清潔で使い易い、安らぎの空間としてのトイレを作ることが可能となります。その結果は、単なる排泄の場としてのトイレから脱却し、人間生活にふさわしいレベル・アップされたトイレを作ることになるに違いありません。

※大久保彦左衛門の言葉

大久保彦左衛門が千利休の『砂雪隠』について「一番気持ちよかったことは?」と問われ、「野糞を致す心持でござる」と答えたこと

【出典】トイレの考古学・講演編(130-134頁)より転載

編集: 大田区立郷土博物館

発行者: 村山弘二

発行所: 東京美術

発行: 1997年5月30日

